

ZEPHYROS

ゼフュロス No.29

The National Museum of Western Art, Tokyo 国立西洋美術館ニュース

ISSN1342-8071



ポール・ランソン
《ジギタリス》 1899年
デトランプ、カンヴァス 150.0×70.0cm

国立西洋美術館新収作品について①

森の中に、草木や花々に囲まれて立つ女性。縦長のキャンバスにきわめて装飾的な構図で描き出された画面は、ランソンの芸術の特徴をよく表しています。

19世紀末のフランスで、ランソンはボナール、ヴェイヤー、ドニ、セリュジエらと

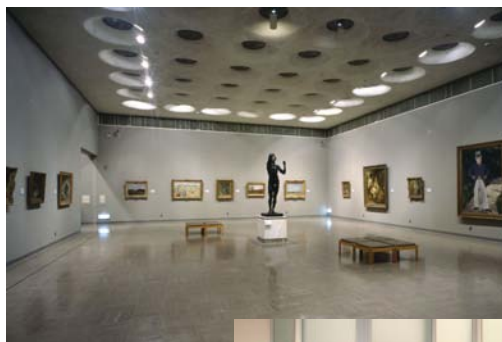
国立西洋美術館新収作品について①

共に、中世やオリエントの装飾芸術に触発された新しい美学に基づく「ナビ派」を結成し、多くの美しい作品を制作しました。

この画面の四周にはタピスリー（綴れ織り壁掛け）の飾り縁のような枠取りがあり、タピスリー作品の平面的で装飾的な効果を強く意識して描かれたことが分かります。絵画自身の平面性に着目したナビ派の画家たちにとって、中世以来のタピスリー芸術は日本の浮世絵などと共に学ぶべき最良の手本のひとつでした。実際この作品においても、入念に画面の光沢を除き、マットな画面効果が追求されており、伝統的な油彩画と一線を画そうとするランソンの意図がうかがえます。画面前景に大きく描かれた、赤紫色の釣鐘状の花をもつゴマノハグサ科の植物ジギタリス（キツネノテブクロ）は、その葉が強心剤として古くから用いられた薬草です。ここでは生命溢れる植物の繁茂を通して、ナビ派の装飾的美学が実現されています。それは、一方では中世や日本の装飾美術に由来する平面や曲線を用いることで、アール・ヌーヴォーの様式に直結し、他方では世紀末の象徴主義に結びつくシンボリックな隠喩的表現となって現れています。画面の女性の嗅ぐ花の香りと受粉、生殖の神秘は、彼女自身に内在する生命の連鎖との照応関係にあるのです。

1895年、パリ、プロヴァンス街の美術商ジークフリート・ビングの店「メゾン・ド・ラルール・ヌーヴォー」が改装・装飾されるにあたって、ランソンは食堂の壁画連作7点を制作し（その中の大作1点《収穫する7人の女性》は平成4年以来新潟県立近代美術館所蔵）、他にもヴィトロー（ステンドグラス）、タピスリーを手がけました。ランソンの装飾芸術、とりわけタピスリー芸術への傾倒はこの頃より加速し、僚友のマイヨールやリップル＝ロナイなどと競うようにタピスリーのプロジェクトに手を染めました。とはいえ、実際にランソンが制作したタピスリーは現在まで僅か10点ほどしか伝わっておらず、大部分はカルトンのみが残されています。

（国立西洋美術館客員研究員 高橋 明也）



新館展示室



本館展示室

国立西洋美術館新収作品について②



ヤーコブ・ヨルダーンス 《聖家族》1620年頃
油彩／カンヴァス 116.0×76.0cm
©上野則宏

平成17年度に国立西洋美術館は、個人蔵の美術コレクションより絵画5点をまとめて購入し、さらにご厚意により、油彩画2点と素描1点をご寄贈いただくこととなった。購入した絵画は、フランチェスコ・ボッティチーニ作《聖ニコラウスと聖カテリーナ、聖ルチア、聖マルゲリータ、聖アポローニア》、ボニファーチョ・デ・ピターティに帰属される《聖家族、トビアスと大天使、聖ドロテアと幼い洗礼者ヨハネ》、ヤーコブ・ヨルダーンス作《聖家族》、シモン・ヴァエに帰属される《アレクサンドリアの聖カタリナ》、ギュスターヴ・ドレ作《ラ・シエスタ：スペインの思い出》である。これに加えて、アードリアン・イーゼンブラントに帰属される絵画《玉座の聖母子》、ジョヴァン・アントニオ・ペッレグリーニに帰属される絵画《アレクサンドリアの聖カタリナ》、アレクサンドル・ガブリエル・ドウカンの素描《法学者に囲まれたキリスト》をご寄贈いただいた。

これらの作品のうち寄贈作品の《玉座の聖母子》は、作者こそ明確にされていないものの、イタリア的なモチーフの玉座にいささか古風な聖母子像を配した、16世紀前半のネーデルラント派による聖母子像の特徴を示す、丁寧に仕上げられた小品である。また、15世紀後半の画家ボッティチーニの聖人像は、1460年代から1470年代にかけてのフィレンツェ派絵画の平均的な水準を明らかにしている点で注目される。

1620年代に描かれたと推測されるヨルダーンスの《聖家族》は、この画家の初期から中期への作品で、親密感のあふれた宗教画である。国立西洋美術館はヨルダーンスに帰属される作品《ソドムを去るロトとその家族》を所蔵しているが、この画家のオリジナルの特徴がはっきり

国立西洋美術館新収作品について②

と現れている《聖家族》は、ルーベンスの構図によって描かれた《ソドムを去るロトとその家族》に対して、国立西洋美術館のコレクションの中でも好個の対をなすと思われる。これに対してシモン・ヴーエに帰属される《アレクサンドリアの聖カタリナ》は、1620年代にイタリアに滞在していた他のフランスの画家の制作による可能性も指摘されており、作者こそははっきりとしていないものの、聖女に見立てられたバロック時代の女性肖像として、質の高い作品であることは疑えない。また、パッレグリーニに帰属される《アレクサンドリアの聖カタリナ》にも、ロンバルディアの画家パオロ・パガーニの制作によるとする説などがあり、作者の確定はされていないが、こちらは、明暗のはっきりとした17世紀後半のヴェネチア派の描法に18世紀の筆致を加えた絵画様式で描かれている。

《ラ・シエスタ:スペインの思い出》は、第二帝政期のフランスを代表する画家ギュスターヴ・ドレが1875年のサロンに出品するために描いた作品である。19世紀フランスの「スペイン趣味」を色濃く示す大作は、国立西洋美術館の近代フランス絵画コレクションに、これまでなかった特色を加えるものであろう。

これらの作品のうち、寸法の問題から新たな展示方法を考慮する必要のあるドレの作品と、額の補修が必要なボンファーチョ・デ・ピターティの作品を除く絵画は、すでに本年の2月より国立西洋美術館の本館の壁に掛けられ、オールドマスター部門の展示をさらに充実したものとしている。国立西洋美術館では、5点の作品を一時に展示するためにコルビュジエ設計の本館ギャラリーに新たな作り壁を設けたが、これも美術館開館以来、常設展示としては、初めての試みである。

(東京藝術大学 助教授 田辺 幹之助)



フランチェスコ・ボッティチーニ
《聖ニコラウスと聖カテリーナ、聖ルチア、
聖マルゲリータ、聖アポローニア》
1465～67年頃
テンペラ/板 115.0×122.5cm
©上野則宏

シモン・ヴーエに帰属
《アレクサンドリアの聖カタリナ》
1621～24年頃
油彩/カンヴァス 98.0×77.5cm
©上野則宏



◆常設展観覧料

一般	420円(210円)
大学生	130円(70円)
高校生	70円(40円)
中学生以下・65歳以上	無料

※()内は20名以上の団体割引料金

美術館図書館と新聞切り抜き

美術館の舞台裏には、キュレーターやエデュケーターなど館員の活動を支える図書館があります。当館の図書館は2002年より「研究資料センター」の名で他の美術館のキュレーターや大学の研究者らにも公開しており、国内でただ一つの西洋美術分野に特化した専門図書館として、第一線で活躍する研究者・美術関係者のニーズを視野に入れた資料収集活動に取り組んでいます。

そのなかで特色ある収集分野の一つが「エフェメラ」です。エフェメラはギリシア語の「短命の」という語から派生した言葉で、新聞・雑誌記事の切り抜き、パンフレット、絵はがきなどの散逸しやすい資料を一括りにした総称です。エフェメラは、文字通り時間の経過と共にどこかに行ってしまうおそれもありますが、きちんと整理しさえすれば、ときとして図書や雑誌からは得られない生きた情報をもたらしてくれる貴重な資料となります。

たとえば当センターの書庫にある「パブロ・ピカソ」というファイルには、生誕125周年を迎えた今年の「ピカソ年」の新聞記事、世界中の美術館で開催されるピカソ展の展覧会評、オークションでの史上最高の落札額を報じた新聞記事、1960年代の雑誌に掲載された独占インタビューの記事など、さまざまな時代の各種媒体の切り抜きが収められています。このほか展覧会チラシ、出品目録、小冊子、画廊の招待状も蓄積されています。

こうした特殊なタイプの資料は、図書資料とともに、作品の調査に有益な素材を提供し、展覧会の構想に刺激を与えるなど、新しい価値を生み出す源ともなっていくものです。当センターはこのような考え方からエフェメラの収集も積極的に行い、内外の美術館活動の支援に取り組んでいます。

(情報資料室研究員 川口 雅子)



研究資料センター
閲覧室



「パブロ・ピカソ」
ファイルの中味

展示カレンダー [企画展示/常設展示] 2006年11月～2007年4月

常設展示 (本館・新館)

ロダンの彫刻と、中世末期から18世紀末頃までのオールド・マスターの絵画を本館で展示しています。新館では、モネ、ルノワールなどのフランス近代絵画を中心に19世紀半ばから20世紀の絵画を展示しています。

■ 休館日
 ■ 土・祝日

11 NOVEMBER	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	<p>ベルギー王立美術館展 (企画展示室) 9月12日(火)～12月10日(日)</p> <p>フランク・ブラングイン版画展 (新館2F版画素描室) 9月12日(火)～12月10日(日)</p>																													

12 DECEMBER	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	<p>ベルギー王立美術館展 (企画展示室) 最終日 12月10日(日)</p> <p>フランク・ブラングイン版画展 (新館2F版画素描室) 最終日 12月10日(日)</p> <p>「Museum X'mas in 国立西洋美術館」ガーデン・イルミネーション 12月1日(金)～翌年1月8日(月・祝)</p>																														年末年始 休館 12月28日(木) 1月1日(月)

1 JANUARY	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	<p>1月2日(火)～開館(常設展示)</p> <p>「Museum X'mas in 国立西洋美術館」ガーデン・イルミネーション 最終日1月8日(月・祝)</p> <p>施設保守点検等のため全館臨時休館 1月16日(火)～1月21日(日)</p>																														

2 FEBRUARY	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	

3 MARCH	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	<p>イタリア・ルネサンスの版画-チューリヒ工科大学版画素描館の所蔵作品による (企画展示室) 3月6日(火)～5月6日(日)</p> <p>平成14-17年度新収版画作品展 (新館2F版画素描室) 3月6日(火)～6月3日(日)</p>																														

4 APRIL	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	<p>イタリア・ルネサンスの版画-チューリヒ工科大学版画素描館の所蔵作品による (企画展示室) 3月6日(火)～5月6日(日)</p> <p>平成14-17年度新収版画作品展 (新館2F版画素描室) 3月6日(火)～6月3日(日)</p>																													

※ 展覧会名、会期、内容等は変更されることがあります。

国立西洋美術館

- 所在地…〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7
- 開館時間
 通常…午前9時30分～午後5時30分(ただし、秋の企画展閉会日以降の開館日から春の企画展開催日までの開館期間中=午前9時30分～午後5時)
 毎週金曜日…午前9時30分～午後8時(入館は閉館の30分前まで)
- 休館日…月曜日(ただし、月曜日が祝日あるいは振替休日となる場合は翌火曜日) 年末年始(12月28日～翌年1月1日)
- 常設展無料観覧日…毎月第2、第4土曜日と文化の日(11月3日)
- お問い合わせ…ハローダイヤル:03-5777-8600
<http://www.nmwa.go.jp/>

※ 誌名について…「ZEPHYROS」(ゼフュロス)はギリシャ神話の神々のひとりて、西風を司る神様の名前です。西欧では暖かさや色ざまざまの花々を運ぶ春の風をさします。

ZEPHYROS

ZEPHYROS 第29号

編集・発行 国立西洋美術館/平成18年11月20日(年4回発行)
 協力(財) 西洋美術振興財団
 印刷(株) アイネット